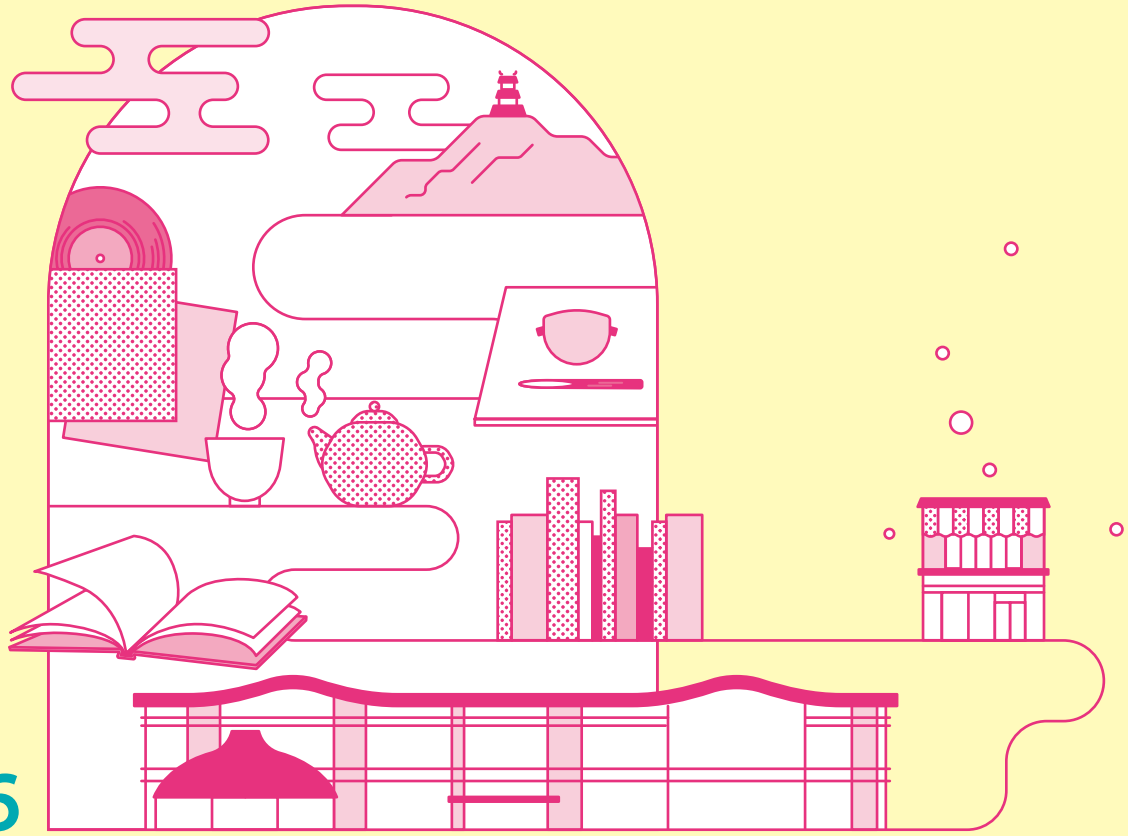
メディコス文化道

Medicos Bunkamichi

CONTENTS

メディコスWALK / わたしがまちを歩いたら。
岐阜カルチャー案内 / MEDICOS JOURNAL



VOL. 16

メディコス文化道とは？

これまでの文化道はこちらから！

ぎふメディアコスモスが発行する季刊紙として、2021年に創刊した「メディコス文化道」。メディコスを起点に人をつなぐ文化の道がまちへと広がってほしいと願って“文化道”と名付けました。この小さな冊子が、あなたとまちの文化が出逢う大きく広い窓となりますように。

MEDICOS PICK UP

岐阜市立中央図書館

2015年夏にメディコス館内に開館。現在の蔵書は約60万冊、座席数は約900席。親子で過ごせるエリアや中高生に向けたYAコーナー、季節や時事のテーマに合わせた展示や本の紹介を行うコーナーなども充実。岐阜市の郷土資料や小冊子も広く収集し、本や情報を通して人と人、人とまちをつなぐ、居心地のいい滞在型図書館です。

メディコス文化道 vol.16 （2025年10月発行）
発行 / みんなの森 ぎふメディアコスモス
編集・デザイン / さかだちブックス（株式会社リトルクリエイティブセンター）

[みんなの森 ぎふメディアコスモス]
〒500-8076 岐阜市司町40-5
TEL.058-265-4101
https://g-mediacosmos.jp/

Instagram

シビックプライドプレイス

10th
みんなの森
GIFU MEDIA COSMOS

MEDICOS JOURNAL

メディコス ジャーナル

2025 SUMMER

メディコスのイベント、取り組みイロイロ紹介！

特集 01

メディコスアニバーサリー3days開催！

広場のマルシェには各日15店舗以上が出店し、来館者はグルメやワークショップを満喫。
19日夜には盆踊り大会も実施されました。

左：「みんなの森の住人たち」では、家族が協力して作品を制作
右上：マスコットキャラクターの作者には小学生も！
右下：幻想的なパフォーマンスが展開された「アート・ライブ・ラリー」

夏空の下で楽しむ、マルシェやトーク。初開催の夜の企画も！

2025年7月19～21日に、メディコス開館10周年を祝う「メディコスアニバーサリー3days」が開催されました。館内では、メディコスの10年を振り返り、これからの10年を考える、10周年を記念して発行されたコンセプトブックを配布。広場や館内のマルシェでは、暑さを吹き飛ばす冷たいデザートやドリンク、軽食を提供するキッチンカーの出店、ハンドメイド作品の販売、ワークショップなどで賑わいました。

20日に行われた「メディコス公式マスコットキャラクター公開コンペティション」では、応募総数756件の中から選ばれた10作品の作者が、こだわりのポイントや想いを熱弁。本やグローブなどメディコスを象徴するモチーフを使っていたり、優しさや知性にあふれる個性を持っていたりと、メディコスへの想いが込められており、選ばれたキャラクターの活躍が楽しみとなりました。

今年4回目となったアートワークショップ「みんなの森の住人たち」では、「みんなの『家』をつくろう」をテーマに、参加親子が2日間かけてダンボールでオブジェを制作。子どもも大人も夢中になって手を動かし、ツリーハウスやお城のような作品を完成させました。個性豊かな“みんなの家”は、「本の蔵」に展示されています。

20日夜には開館以来初の試みとして、閉館後の図書館で「アート・ライブ・ラリー『夢十夜／100年たったら』」を実施。「夢十夜」（夏目漱石）と同作から着想を得た絵本「100年たったら」（石井睦美・文／あべ弘士・絵）の物語を、7名の画家や美術家のライブペイント、アナウンサー・浅井彰子さんの朗読、ミュージシャン・ISSEIさんの音楽で表現。静まり返った図書館の非日常的な空間の中、観客は朗読と音楽に耳を傾けながら、次々と大胆に重ねられていく作品に釘付けとなりました。

その他、アニメ「小市民」にまつわるトークや、子どもたちが架空都市でさまざまな挑戦をする「ぎふマーブルタウン」、絵本ライブ、岐阜弁クイズラリーなど多彩な企画が展開され、メディコスが多様な人々が思い思いに過ごせる場であることを実感する3日間となりました。

メディコスコンセプトブックは
館内で好評配布中！

特集02

みんなの座談会「わたしたちのメディコス 十人十色の10年とこれから」

2025年7月20日に開催されたみんなの座談会「わたしたちのメディコス 十人十色の10年とこれから」。元メディコス総合プロデューサー・吉成信夫さん、てにておラジオ代表・浅井彰子さん、一般社団法人ヒトノネ代表理事・篠田花子さん、柴橋正直岐阜市長が登壇し、メディコスの10年間の歩みとこれからの可能性を語りました。老若男女を受け入れるメディコスの懐の深さを語った浅井さんと篠田さんは、今後、ハンディキャップを持つ人や、読書や勉強が苦手な子を受け入れる場になっていってほしいと期待を寄せました。開館当初から従来の図書館の枠組みに捉われない場づくりを職員と共に進めてきた吉成さんは、「創造的破壊によって、これまでにないクリエイティブな挑戦を続けてほしい」と激励。柴橋市長も吉成さんと進めてきたシビックプライドの取り組みなどを振り返り、「メディコスのような価値観の場所を、今後は他の場所にも広げていきたい」と展望を語りました。

特集03

メディコスを深く知る「メディコスアドベンチャー」を5年ぶりに決行！

2025年7月19・20日に、メディコスの物知り案内人「コスモスさん」とともに館内外を巡る探検ツアー「メディコスアドベンチャー」が開催されました。せせらぎの並木から岐阜城が見える高さに設計された屋根や、館内に空気の流れを生み出す工夫が施されたグローブや天井のかたち、岐阜ならではの自然環境を生かした室温を快適に保つ仕組みなど、建物の秘密が次々と紹介され、参加者は普段は気づかないメディコスの魅力を再発見していました。

インタビュー INTERVIEW

図書館オリジナルバッジを制作！

第1弾はすでに完売し、第2弾も2025年7月19日の発売初日に50個が売れるなど大好評の岐阜市立図書館オリジナルピンバッジ。この2つのピンバッジのデザインを担当した司書の高橋悠菜さんにお話を聞きました！

オリジナルピンバッジ
第1弾（左）と第2弾（右）

来館者のみなさんの反応がやりがいです！

岐阜市立図書館
事業係
高橋悠菜さん

前職はデザイナーで、2020年から岐阜市立図書館に司書として勤務し、現在は事業係で図書館だよりの制作など、デザインに関わる業務を主に担当しています。オリジナルピンバッジの第1弾は10案ほど考えて、職員による投票でグローブのデザインに決まりました。第2弾は子どもたちに喜んでもらえるように、図書館のわんこカート「きらら」とにゃんこカート「にゃん吉」をモデルにして、リアルさを残しつつ、可愛らしさが感じられるよう工夫しました。図書館のデザインの仕事はゼロから考える難しさがありますが、来館者のみなさんからの反応が直に見られてやりがいを感じています。

メディコスからはじまる、小さな発見の旅。

メディコス WALK 01

VOL.

居心地のいい図書館から御鮨街道までを散策

何度訪れても、その美しさと迫力に圧倒される木製格子屋根と11のグローブ。約60万冊の蔵書を誇る『岐阜市立中央図書館』は、まるで"本の森"に迷い込んだような、わくわくした気持ちになれる場所。その一角にある「シビックプライドライブラリー」には、岐阜のことを深く知り、楽しく豊かに暮らせるヒントになる本が横断的にセレクトされていて、興味をそそられます。

図書館で過ごした後は、メディコスのすぐ東にある"岐阜町"と呼ばれるエリアへ。戦国時代に岐阜城の城下町として発展し、江戸時代以降も商店が軒を連ねて賑わった地域で、今も老舗の商店や町家の建物が残ります。そんな岐阜町を南北に通るのが、「御鮨(おすし)街道」。長良川の鵜飼で捕れた鮎をなれ鮨にして徳川将軍家に献上するために運んだ道です。

歴史ある〝商いのまち〟で新旧の名店をめぐる

古くから商売のまちとして栄えてきた岐阜町。近年は、閉業する店や空き家の増加に危機感を抱き、まちの歴史と風景を守りたいと有志が設立したまちづくり会社「岐阜まち家守」が、改装した建物や空き家と商売を始めたい人や移住希望者をつなぎ、まちに新たな活気が生まれています。岐阜まち家守のプロジェクトとして誕生した『裏参道モール』は、天むすの店と、ういろ屋が手掛ける米粉麺フォーの店が入居し、どちらも大人気に。

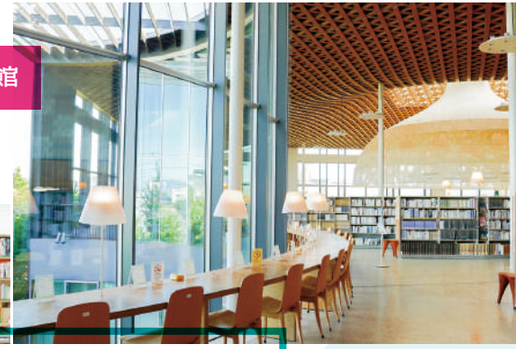
さらに御鮨街道を北へ進み、路地を東に入ると、2棟の隣り合う古民家を活かした『ギャラリー・カフェ 水の音』に辿り着きます。ギャラリーでは絵画などの現代アート作品、カフェでは陶芸、ガラス、金工といった工芸作品を中心に企画展を開催。アートを身近に感じながらカフェで中国茶をいただいていると、時の流れがゆったりと穏やかになっていくのを感じます。

続いて、創業150年を超える老舗の湯葉専門店『湯葉勇商店』へ。5代目の山田政雄さんは74歳。毎朝3時から大豆を炊き上げ、作りたての湯葉を市場に卸すことから1日が始まるのだそう。6代目の知幸さんとともに真面目に、実直に作られた湯葉をほくほくしながら買い求めました。

最後はこちらも老舗の和菓子屋『松花堂』で、ひと休み。10日ほどで替わっていく季節の上生菓子には、日本ならではの繊細な感性が宿ります。滑らかで上品なこし餡が入った定番のわらび餅と抹茶が小さな旅の疲れを癒してくれました。

岐阜市立中央図書館

2015年 オープン



1958年に岐阜市八ツ寺町に設立された岐阜市立図書館が、世界的建築家・伊東豊雄氏の設計によるメディコスの開館に伴って、『岐阜市立中央図書館』として移転オープン。

岐阜市司町40-5
9:00~20:00　最終火曜・年末年始は休館
TEL.058-262-2924

鮎のなれ鮨を江戸に運んだロマン!!

裏参道モール

2023年 オープン

地域の活性化を目指すまちづくり会社「岐阜まち家守」のプロジェクトの一つとして、伊奈波神社と岐阜善光寺の"裏参道"に建つ複数の古民家をリノベーションした商業施設。

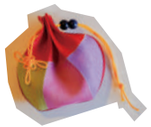
〈岐阜まち家守〉
岐阜市鞍屋町31
TEL.058-201-5680

ギャラリー・カフェ 水の音

2002年 創業

布アート作家の板倉倫子さんが2002年に創業した工房『CHA CHA NOTE』が前身で、2017年に水路を隔てた2棟の築100年余の町家を改装してオープンしたアートギャラリーとカフェ。

岐阜市新桜町12
12:00~18:00　水・木曜定休、不定休あり
TEL.058-201-0122



ポシャギの巾着かわいい♡

松花堂

1919年 創業

初代が岐阜市忠節で創業した和菓子屋。ひと月に3度ほど入れ替わる6~7種類の上生菓子が季節の移ろいを告げる。京風の素朴で洗練された菓子は茶席でも好まれている。

岐阜市松屋町1-5
9:00~17:00(売り切れ次第終了)
日曜定休(祝日は営業)
TEL.058-262-5741

抹茶と和菓子でひと休み。

見上げれば、金華山。

湯葉勇商店

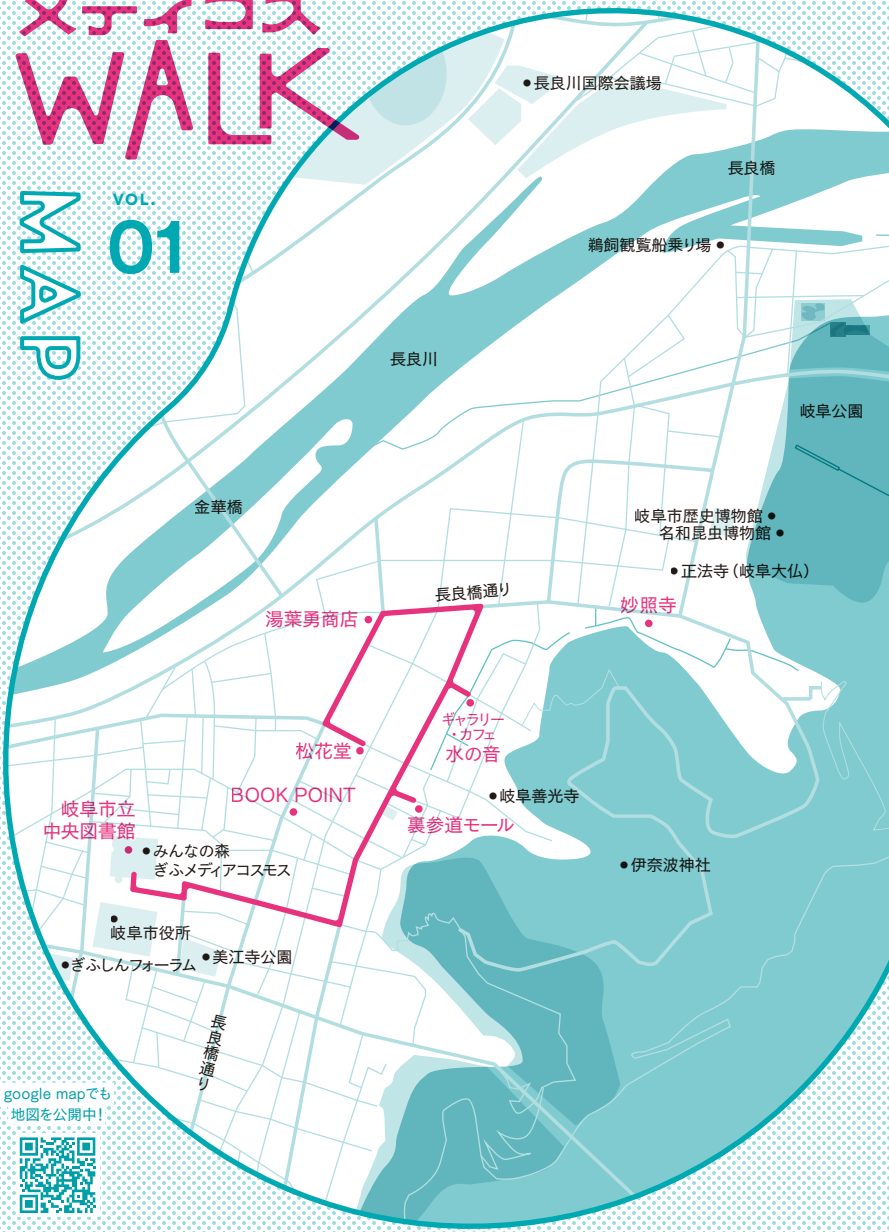
1867年 創業

江戸末期から150年以上続く湯葉専門店。昔から変わらぬ製法で、岐阜産を中心とした大豆と長良川の伏流水を使って湯葉を手作りする。さしみ、汲み上げ、乾燥湯葉などを卸や店頭で販売。

岐阜市本町4-36
9:00~17:30　日・祝日定休
TEL.058-262-1574

メディコスWALK MAP

VOL. 01



google mapでも
地図を公開中！

メディコス編集講座修了生コラム

わたしがまちを歩いたら。

このコラムでは、メディコス編集講座修了生が
岐阜市の魅力的なスポットを取材しています！

妙照寺

岐阜市梶川町14
10:00～16:00　無休
TEL.058-264-7793

1534年に現・岐阜市柳町あたりに開山された『妙照寺』は、1600年に竹中半兵衛屋敷跡であった現在地へ移転された。その佇まいは飾り気のない実直そのもの。俳聖・松尾芭蕉が逗留した「芭蕉の間」や、竹中家が守護神として祀っていた「三光稲荷社」と見所はたくさんあるが、私の目に留まったのは「庫裡（くり）」から続く本堂にある「十界大曼荼羅（まんだら）」。建物の外観から感じる実直さから一転、まるで柔らかい優しい光に包まれているかのようなご本尊だ…。毎年この本堂では、井の口まちづくり会が主催となり、全国の学生落語家を招いて「井の口寄席」なるものを開催しているとか。妙照寺はこれからも市民の拠り所として、そこに在り続けるだろう。

BOOK POINT

岐阜市矢島町2-27 那波ビル1F
24時間利用可能
https://kikukawabook.com
@littlefreelibrary_bookpoint

長良橋通り「泉町」交差点角のビルのガレージに、ひっそりと佇む小さな本棚があります。おうちの本を持ってきたり、ふらりと立ち寄って気に入った本を持って帰ったりできる、みんなの本棚『BOOK POINT』。本のジャンルは様々で、受験シーズンが終わると赤本が並ぶことも。設置したのは、岐阜で選書サービスを手がける市川由加里さん。必要以上に整えなくても誰かが本を補充して、きれいに並べておいてくれる。市川さんは「私は定点観測をしているだけ」と笑いながら、そっと見守ります。信号待ちの女の子が青に変わるまでの間、ふと本を手に取る。そんな風に町にじわーっと浸透して、風景になじんでいく。知らない誰かと本を通じて繋がる場所です。

第2期修了生
小澤歩美さん

岐阜市在住。保育士。ぎふ木育指導員。私の知らない素敵な場所や人に出会える予感がしてメディコス編集講座を受講。今回の『BOOK POINT』という場との出会い、市川さんとの出会いは、まさに予感的中！次回、私は何に出会うのか。

小澤さんが
編集講座で書いた
ブログはこちら

第1期修了生
石田基樹さん

ブログが書きたくて受講したメディコス編集講座でしたが、その成果はさておき、今回は『妙照寺』の副住職である堀智賢さんからお聞きした貴重なお話を自分の感性を生かしながら文章に落とし込むことに四苦八苦。やはり書くって面白い！

石田さんが
編集講座で書いた
ブログはこちら

〈メディコス編集講座とは？〉岐阜市の魅力的な情報を集め、発信する担い手育成を目的として岐阜市が開催している講座で、令和6年度の4期までに83名が修了し、市民ライターとして活動しています。この修了生の記事は、メディコス館内「ぎふ古今」のまち歩きステーションのスポット紹介にも活用されています。

岐阜カルチャー案内

DISCOVERY 店主
吉住学治（がくじ）さん

**レコードは“庶民的なアート”。
自分と共鳴する作品を
探してもらえたら嬉しいです。**

レコードを買い始めたのは20歳の頃だったと思います。学生時代からとにかく音楽好きで。ある日、友人宅でボビー・コールドウェルのレコードを聴かせてもらって「こんなにかっこいい音楽があるんや!」って、めちゃくちゃ痺れたんですよ。それで自分もレコードを集め始めました。22歳でオーストラリアにワーキングホリデーで滞在していた時は、10ヵ月で1,000枚以上買ったりして、もう夢中でした。その後も国内外でレコードを買い続けています。

5年前に会社を辞めて今後のことを悩んでいた時に、古物商の資格を取ってレコードの出張買取をやってみたんです。その中で印象に残る出会いがあって。部屋が埋まるほどのコレクションをお持ちのお客様で、好きな音楽の話や、レコードにまつわる思い出も聞かせてもらううちに、「ああ、これは人生の一部を引き受けているんだな」と、胸が熱くなりました。お客様もすごく喜んでくれて。それで「レコード屋をやるぞ!」と決意して、2022年に岐阜市玉宮で『DISCOVERY』を始めました。

レコードは"庶民的なアート"であると個人的には思っています。世界中に数えきれないほどの作品があって、ジャケットにも音楽にもアーティストのメッセージが込められていて、ひとつひとつ向き合えば、どれも個性的で興味深いです。自分と共鳴する作品を探してみてもらえたら嬉しいです。

中古レコード専門店 ディスカバリー
DISCOVERY

岐阜市玉宮町1-3 森麻ビル3F
12:00～19:00　火・水曜定休
TEL.058-262-0808
https://discovery-gifu.net/

Website

アノ人に聞いてみた、音楽と喫茶の話。

**喫茶店はその時代の文化を
今に残す身近な
“文化財”なんです。**

yachosketch
奥山涼子さん

出身は大垣市なんですが、岐阜市内の大学に通っていた頃、友人とのモーニングがきっかけで喫茶店やカフェに通い始めました。昭和の喫茶店は現代にはない建物のユニークさや、おばあちゃん家のような懐かしさがありますよね。

7、8年ほど前にコクヨの「測量野帳」というミニノートを見つけて、それに喫茶店でかわいいと思ったことや風景をスケッチで記録するようになりました。自分なりの方法で喫茶店の文化を残したい、と思って。スケッチをしていると、こんなものが飾ってあるんだとか、こだわった内装とか、窓から入ってくる光とか、壁の長年使われてきた感じや傷とかにも気づくんですよ。カウンターで常連さんとマスターが喋っていたりして、人の温かさも感じられます。

初めてスケッチをしたのは、大垣の『頬頬』さんでした。岐阜市は『ル・モンド』さんや『ムーミン』さん、今はもう閉店した柳ケ瀬の『田中家』さんとか。何年か経って見返すと、もうなくなっちゃったお店も多くて…。今はライフワークとして、図書館や古本屋、古道具屋で古い地図や資料、マッチを集めたりして、珈琲喫茶文化について調べています。喫茶店やまちの歴史を調べて、それを歩いて辿っていると、知らなかった景色に気づけるんです。昭和、平成、令和。それぞれの時代でまちに文化が生まれていて、喫茶店はその時代を残している身近な“文化財”なんだなって思います。

ヤチョウスケッチ
yachosketch

岐阜市や大垣市の喫茶店とまち並みを記録するために奥山さんが描き溜めたスケッチの数々をInstagramで公開。現在は岐阜の珈琲喫茶文化をまとめた本の出版に向けて奮闘中。

@yachosketch

Instagram